

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
再生普及行動計画ワーキンググループ（第3回）

議事要旨

平成 16 年 10 月 13 日（水）18:30～21:00

釧路地方合同庁舎 4 階 共用第三会議室

【出席者（敬称略）】

<委員（所属）>

- ・ 大西英一（釧路武佐の森の会代表）
- ・ 金子正美（酪農学園大学環境システム学部助教授）
- ・ 近藤一燈美（釧路湿原ボランティアレンジャーの会）
- ・ 佐竹直子（ボランティアネットワーク チャレンジ隊）
- ・ 宿谷友美（ボランティアネットワーク チャレンジ隊）
- ・ 新庄久志（釧路国際ウェットランドセンター主幹）

<再生普及小委員会（所属）>

- ・ 音成邦仁（財団法人野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ）
- ・ 高橋 昭
- ・ 高橋忠一（北海道教育大学釧路校 助教授）
- ・ 渡辺 修（さっぽろ自然調査館）

<釧路湿原再生協議会事務局（出席者）>

- ・ 国土交通省北海道開発局釧路開発建設部（治水課流域計画官／大東淳一）
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター（所長／池田敏邦）
- ・ 北海道釧路支庁（地域政策部環境生活課自然環境係長／後藤達彦、同主任／藤村朗子）

<関係市町村（出席者）>

- ・ 釧路市（環境部環境政策課課長補佐／木村俊宏、自然保護担当／司口幸治）

<ワーキンググループ事務局>

- ・ 環境省東北海道地区自然保護事務所
- ・ 財団法人北海道環境財団

【議事概要】

<事務局> 第3回再生普及行動計画ワーキンググループ（以下「行動計画WGと表記」）を開催する。進行は座長にお任せする。

<座長> 今回から行動計画について皆様に具体的な意見を出していただく。議事1について事務局の説明を求める。

<事務局> 資料『活動紹介ページの作成と追加（案）』と『行動計画WGの活動に関する情

報共有について（案）』に沿って説明。

〈座長〉事務局からの2つの提案について何か意見はないか。（特に意見なし）

なければ、議事2の具体的な検討について説明を求める。

〈事務局〉今回から、市民参加・環境教育の推進に関する10の提言（以下「提言」と表記）に沿って、必要な具体的な取り組みをまとめていただくため、ワークショップ形式で討議を行っていただきたい。本日は提言1「人々の湿原への関心を喚起する」、提言2「湿原と人との関わりの歴史と今を知る」、提言7「湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる」について検討を行う。各テーブルには1つの提言が書かれた模造紙（フォーマット）があるので、それにしたがって付箋紙やマジック等を使って検討してもらおう。各テーブルで進行役を決め、1時間後に検討の結果を発表してもらおう。今回の趣旨は、今まで提言に記載されていた取り組みの例にフォーマットに書かれている点（取り組みとその内容、ねらい、実施者、費用、評価手法など）を補足してもらおうことと、新しい取り組みのアイデアを出してもらい、より多くの行動計画を皆様のお知恵で出してもらおうことである。

〈座長〉ワークショップを始める前に何か確認しておきたいことはないか。

〈委員〉テーマごとの検討メンバーの選定はどのように行ったのか。

〈事務局〉事前にメンバーにアンケートを求め希望を募った。人数が多くなったテーマについては、事務局で調整を行った。

〈委員〉実施者は誰でも良いのか。既に提言で示されている取り組み例の内容と、今回の行動計画はどう違うのか。

〈座長〉10の提言の段階では、今回整理していただくようなフォーマットに整理されていない場合もあるので、今回は皆さんに具体的な取り組みを整理していただくことが目的である。

〈事務局〉行動計画WGメンバー自らの取り組みや別の主体が行うようなものも大枠で提案してほしいと考えている。

〈座長〉行動計画WGメンバー自らの取り組みをまず先に考え、次に他の団体が行う取り組みについて考えてみてはどうか。

〈委員〉湿原再生への市民の参画を如何に広げることがこの行動計画WGの課題で、個々の取り組みをあげることが必要なことなのか。

〈委員〉自然再生に参加していないグループをどう取り込んでいくか、そのためにどんな取り組みが必要か、今回のフォーマットで列記し検討することにも意味があると思う。

〈座長〉両方の視点を盛り込みながら、ワークショップに取り組んでほしい。

***** ワorkshop開始 *****

〈座長〉これから、検討グループごとに発表していただきたい。

※ グループ発表に使った模造紙はエクセルファイルを参照。

提言1 人々の湿原への関心を喚起する。

- セミナーやコンサートを湿原で行う。
- このような取り組みは各所で行なわれているが、つながりがない。日時が重なっていたり、広報が不足しているなど問題点も多く、効果的に実施できると良い。
- 以上のことを取りまとめて広報することも必要で、それほど費用はかからないと思う。評価はアンケートなどを用いて行うと今後も活かせると思う。
- 外部の方が湿原を見ていることをアピールすることが必要で、そのことが、地元の人の湿原に対する価値観を見直すことにつながる。
- 人が集まって利益を得ることができれば、企業やホテルなどに相応の負担をお願いすることもできるのではないか。
- 地元の人にいかに湿原に関心を持ってもらうのか、来訪者への視点を地元の人々に置き換えて考えることも必要。
- 指導者を養成していく機会を増やす。

提言2 湿原と人との関わりの歴史と今を知る

- 語り部の登録制度を創設する。
- 流域の農業や昔の湿原がわかっている人（語り部）をシルバー人材センターに登録してもらい、要請に応じて老人大学、釧路市生涯学習センター「まなぼっと」などの講習に派遣する。
- 子どもなどを対象にツアーを開催し、歴史を現場でレクチャーしてもらう。
- 語り部が語る歴史を蓄積し、後世に残していくことが必要。
- それが、地元の人々の湿原再発見の場にもなる。
- 今自然再生に取り組んでいる企業とタイアップして体験ツアーなどを実施する。企業にとってはイメージアップなどにも繋がる。
- Uターン者、Iターン者などの湿原への評価を取り入れる。
- 語り部がどれだけ登録されるか、ツアーの種類や数なども評価の対象となる。

提言7 湿原と継続的に関わる学びの機会をつくる

- 「わくわくエコランド」「北海道川会議」は既に実施が決まっているものである。
- 研究機関や大学などに再生のフィールドを提供し、研究資金を助成する。
- ビジターセンターの職員を増やす。
- 例えば、「わくわくエコ学習」などのロゴマークやスタンプを作って、さまざまな自然観察会などの行事を登録制とする。登録事業に参加することでスタンプをもらい、それらの行事に参加する方自身が、自己の評価をできるようにする。
- 教育機関や企業などの取り組みも登録できるものとして、登録料を徴収する。
- 小、中、高校への出前授業
- 大学・高校・中学、一般市民で組織された、環境教育をすすめるフォーラムをつくり、

(行政ではない) 別の組織に委ねるようにする

- 湿原のなかに入ったり、模型を作るなどして直接湿原に触れる機会をつくる。
- バードソンなどの取り組みのように、湿原のなかで見た生物・植物に寄付金が払われるような仕組みをつくる。
- 北斗展望台を湿原ギャラリーにする
- 宿泊体験施設（ログハウス）を、市民参加のもとに間伐材などでつくる。
- 宿泊体験施設では、湿原近隣の産業（一次産業）を体験できるようにする。
- 湿原が身近に見ることのできるような建物をつくる。

〈座長〉各テーブルからいろいろな意見が出た。お互いのグループについて質問などがあれば伺いたい。

〈委員〉語り部の方法と似ているが、湿原についての聞き書きを一般の方々にやっていただき、取りまとめたものを図書館に蓄積する方法もある。

〈委員〉昔の遊びに詳しい人等を発掘して「達人クラブ」の湿原版があっても良いと思う。

〈座長〉人材発掘など誰がコーディネートするかが課題である。

〈座長〉ログハウスは、湿原再生のシンボリックな存在になるかもしれない。それを建設する過程も、継続的な取り組みとして重視すると良い。実施者が誰になるかが課題である。

〈委員〉学生を連れてフィールドに出かけると宿泊場所に困ることが多い。現在周辺のカラマツ林は植林後放置されており、伐採や運搬を行う人がいれば簡単に材料は集められる。

〈座長〉霧多布トラストでは、地元の建築業者や木材業者に参加してもらっている。施設をつくることをキーワードに、いろんな人を巻き込んで実施することに繋がる可能性がある。

〈座長〉本日、ご提案いただいたものを整理して、すべての提言を一巡した後で皆様に再度お諮りする予定である。

〈事務局〉年内に10の提言を一巡し、年明けにお諮りすることになる。

〈委員〉この作業では、近い将来実現可能な行動計画を作成するという理解で良いのか。

〈事務局〉そのとおりである。実施者をできるだけ引き込んでいけるものになりたい。

〈委員〉提言の「例えば」の欄に記載してあるものもあわせて見直しをして、今日整理したフォーマットに入れるものと入れないものとに整理した方が良い。そして「次のことを実施します」ということを検討する必要があると思う。

〈委員〉事業化に向けた具体的な作業まで検討して計画を作成したほうが良いと思う。

〈委員〉今回の検討では、他の提言テーブルと検討内容が重なっていることが多く、検討の仕方を工夫する必要があると思う。学校や観光客など対象者ごとに課題がすでにあると思うので、それを踏まえてもっと具体的な検討をする必要があるのでは。

〈委員〉今回の検討のフォーマットでは対象者を誰にするかなどの視点が不足していてわかりにくい部分がある。計画をまとめる際には対象者別に整理してみてもどうか。

〈座長〉この形式で議論を一巡した後、様子が見えてきた時点で対象などを中心に整理の仕方を見直してみたい。

〈事務局〉行動計画の全体的な枠組みづくりに合わせて、外部から具体的行動の提案を受けられる方法も可能かと考える。

〈座長〉残りの提言について検討しながら、アウトプットのイメージを手探りで検討していきたい。

〈委員〉湿原展望台のリニューアルを釧路市の観光課だけで検討している部分がある。役所的な縦割りは見直すべき。

〈座長〉議事3について事務局から説明願いたい。

〈事務局〉9月20日に行われた21世紀の道ウォークラリーについて実行委員会の方からご報告願いたい。

〈委員〉当日は天気もよく、4歳から78歳まで148名の参加者があった。目の不自由な方から、お一人、家族、カップルなど参加形態はさまざまである。京都、千葉、埼玉などの道外からの参加者も増えた。アンケートの回収率も50%を超え、面白かったという感想が多く、歩いた方の充実感も高い。「最初は一人での参加であったが、ゴールするころは友達ができていた」「自転車で同じコースを走ってみたい」「全体的にペースが速かった」などの感想があった。ペースのことについては、今後休憩所を設けるなどの配慮をしたい。途中で行ったザリガニ釣りの催しも反応が良く、長く続けて行きたい。

〈事務局〉関連情報の紹介として、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリから「タンチョウ・ティーチャーズガイド」の説明をお願いしたい。

〈委員〉今回、普及啓発の手段のひとつとして、タンチョウに特化したガイドを作成した。内容は、ガイドプログラムや施設の紹介が主なものである。講習会参加者に対して考え方を説明した上でお渡ししていくこととしている。これから、多方面よりご意見をいただき、より良いものにしていきたいと考えている。タンチョウ以外の種についても作成を検討している。講習会は11月に厚岸（場所決定）、2月に釧路圏で実施する予定である。

〈座長〉今後の予定について事務局から説明を求める。

〈事務局〉次回の行動計画WGは、11月16日（火）に開催することとしたい。変更があれば別途通知する。

〈座長〉次回も活発な意見交換を期待したい。本日の参加に感謝する。事務局に進行をお返しする。

〈事務局〉これで本日の行動計画WGを終了する。

以上